

平成27年度

病害虫発生予察情報

第8号

6月月報

北海道病害虫防除所 平成27年7月23日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・寡照』上旬は大雨、下旬はぐずつき、多雨・寡照－

この期間の天気は、中旬は高気圧の張り出しの中で晴れる日が多かったが、上旬と下旬は気圧の谷や低気圧の影響で雨の降る日が多かった。気温は中旬に平年より高かったが、下旬は低く、月平均気温は平年並だった。降水量は上旬に平年よりかなり多かったが、中旬は少なく、下旬は多く、月降水量は多かった。日照時間は上旬に平年より少なく、中旬は多く、下旬はかなり少なく、月間日照時間は少なかった。

上旬：1日は高気圧の張り出しの中で晴れた。2日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、日本海側北部では気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。3日は低気圧の影響で全道的に雨が降り、局地的に大雨となった。日降水量は岩見沢市栗沢で109.0mmなど。4～5日は低気圧の影響で広い範囲で雨が降ったが、太平洋側を中心に晴れた所もあった。6日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、高気圧が張り出し日本海側南部や太平洋側西部では晴れた。7日は寒気の影響により日本海側で曇った他は、高気圧の張り出しの中で晴れた。8日は高気圧の張り出しの中で太平洋側では晴れた所が多かったが、湿った気流の影響で雨の降った所もあった。9～10日は低気圧の影響で全道的に雨が降った。9日の日降水量は登別市カルルスで76.5mmなど。

中旬：11～12日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。13日は低気圧の影響で雨の降った所が多かった。14日は高気圧の張り出しの中で日本海側南部や太平洋側で晴れた他は、気圧の谷の影響で雨が降った。15～16日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、気圧の谷や上空の寒気の影響で雨の降った所もあった。15日の日降水量は上士幌町ぬかびら源泉郷で65.5mmなど。17日は日本海側やオホーツク海側では高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、太平洋側では湿った気流の影響で曇った所が多かった。18日は高気圧の張り出しの中で晴れたが、湿った気流の影響で雨の降った所もあった。19～20日はオホーツク海側では気圧の谷の影響で曇ったが、日本海側や太平洋側では高気圧に覆われて晴れた。

下旬：21日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。22日は気圧の谷の影響で曇った所が多く、雨の降った所もあった。23日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。24日は日本海側北部で晴れた他は、気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。25日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。26日は冷たく湿った気流の影響でオホーツク海側や太平洋側東部を中心に雨が降ったが、日本海側や太平洋側西部では晴れた。27～28日はほぼ全道的に曇って、低気圧の影響で日本海側南部や太平洋側西部を中心に雨が降った。27日の日降水量は知内で105.5mmなど。29日は気圧の谷の影響で日本海側南部など雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて晴れた所が多かった。30日は気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。

気象表

	気温偏差	階級	降水比	階級	日照比	階級
北海道22地点平均	+0.1	並	138%	多	84%	少
日本海側10地点平均	-0.1	並	169%	か多	77%	少
オホーツク海側4地点平均	-0.9	低	132%	多	66%	か少
太平洋側8地点平均	+0.9	高	103%	並	103%	並

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表しています。

II. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期 やや早

予察田の「きらら397」における取り置き苗（接種）の初発期は、岩見沢市では平年より早く、比布町では平年並、北斗市ではやや早かった。「きらら397」の本田での初発は、比布町で平年よりやや早く、北斗市では平年並だった。

予察田におけるいもち病の発生状況

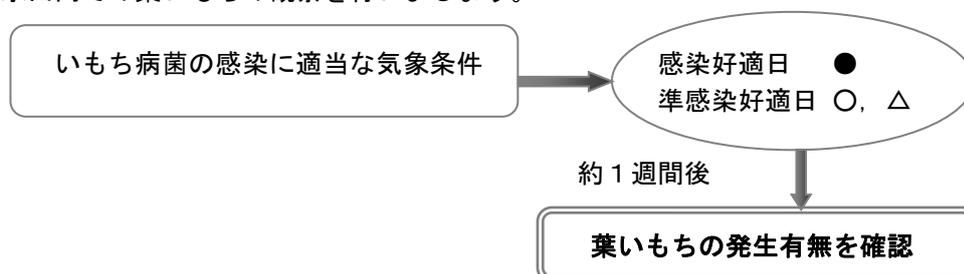
地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月22日	7月1日	未発生	7月23日	4
	ななつぼし	6月22日	7月2日	未発生	7月19日	4
比布町	きらら397	6月18日	6月18日	7月11日	7月14日	10
	ほしのゆめ	6月18日	6月18日	7月11日	7月11日	10
北斗市	きらら397	6月22日	6月25日	7月13日	7月15日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

BLASTAM（ブラスタム）の利用方法

BLASTAMは、アメダスの気象データ（気温・降雨・風速・日照）を利用して、いもち病の感染が起こりやすい日（感染好適日・準感染好適日）を予測するものです。

感染のおよそ1週間後頃から、葉いもち病斑が見えるようになります。好適日から約1週間後に、水田内での葉いもちの観察を行きましょう。



BLASTAM予測結果は防除所のホームページで確認できます！！

2. ヒメトビウンカ（第1回） 発生量 やや多

予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、長沼町で平年よりやや少なく、北斗市で平年よりやや多く、比布町では平年より多かった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田における畦畔すくい取り頭数

月・半旬	畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	1.3	5.0	20.0	26.2	5.0	0.0
2半旬	1.3	3.4	40.0	19.5	0	0.0
3半旬	0	6.3	35.0	8.5	0	0.0
4半旬	2.5	0.0	5.0	2.8	0	0.0
5半旬	0	1.3	0	0.4	0	0.0
6半旬	0	0.0	0	0.3	0	0.0
平年数	3		10		10	

3. イネドロオイムシ 発生期 やや遅 発生量 少

予察田における産卵初発期は長沼町と比布町で平年より遅く、北斗市では平年より早かった。幼虫初発期は比布町で平年より遅く、長沼町で平年並、北斗市では平年より早かった。卵塊数、幼虫の発生量はいずれの地点も平年より少なかった。

巡回調査では、要防除水準（2卵塊/株）を超える地点は認められていない。

予察田におけるイネドロオイムシの初発期

	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
産卵	6.IV	6.II	6.IV	6.II	6.I	6.III
幼虫	6.IV	6.IV	6.V	6.III	6.III	6.V
平年数	3		10		10	

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	卵塊数(25株あたり)						幼虫数(25株あたり)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	-	-	0	2.5	3.0	-	-	-	0	0.0	0	-
2半旬	-	-	0	15.0	5.0	0.9	-	-	0	1.5	0	0.0
3半旬	0	0.5	0	32.9	4.5	-	0	0.0	0	17.6	8.5	-
4半旬	1.0	1.5	1	37.3	2.0	20.4	0	7.8	0	110.2	24.0	36.1
5半旬	5.5	10.8	0	27.5	4.5	-	0	8.8	19	185.7	41.0	-
6半旬	4.5	12.5	0	19.6	4.0	8.4	3.5	30.2	5	231.2	34.0	204.3
平年数	3		10		10		3		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの卵塊数(25株あたり)

普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬		普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬				
		本年	昨年	本年	昨年			本年	昨年	本年	昨年			
空知	本所	5	0.2	0.1	0	0.9	日高	西部	3	0	0	0	1.7	
	南東部	2	0	1.0	0	0		渡島	本所	3	0	0	0	0.3
	南西部	4	0.3	0	0.8	2.8		檜山	本所	2	0	0	0	0
	中空知	4	1.3	2.9	0.5	2.5			北部	2	0	0	0	0
	北空知	8	3.3	4.0	3.5	2.0		上川	本所	8	0	0	0	0
石狩	本所	6	0.2	0	2.0	0.5	富良野		2	0	0	0	0	
	北部	4	0	0.5	0	0.6	大雪		4	1.0	0	1.4	1.0	
後志	本所	4	0	0.3	0	0	士別		2	0	0	1.0	0.5	
胆振	東胆振	4	0	0	0.3	0	名寄		3	0	0	0	0	
							留萌	本所	3	0	0.3	1.0	0.7	
							南留萌	3	0	0	0	0		

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第1回) 発生期 並 発生量 少

予察灯による第1回成虫の初誘殺日ならびに誘殺頭数は、長沼町では平年並であった。比布町および北斗市では誘殺が認められなかった。予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、長沼町で平年並であった。比布町および北斗市では捕獲されなかった。

巡回調査では、多発生が目安となる畦畔すくい取り捕獲頭数5頭(第1回発生期)を超えた例が、空知、石狩、渡島および留萌地方で各1地点ずつあった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における畦畔すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	1	1.2	0	1.1	0	0.0	2.5	0.0	0	0.4	0	1.5
2半旬	0	1.5	0	1.0	0	0.0	1.3	2.5	0	0.6	0	0.8
3半旬	0	12.5	0	2.2	0	0.6	2.5	17.5	0	0.9	0	0.8
4半旬	3	13.2	0	1.4	0	4.5	13.8	2.9	0	0.5	0	2.9
5半旬	0	17.0	0	4.1	0	9.7	0	2.9	0	0.0	0	4.3
6半旬	0	39.0	0	3.2	0	13.0	0	5.8	0	0.9	0	3.3
初誘殺日	6月12日	6月13日	-	6月16日	-	6月21日						
平年数	10		10		10		3		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成・幼虫の畦畔すくい取り頭数(20回振り)

普及センター	地点数	6月6半旬		普及センター	地点数	6月6半旬					
		本年	昨年			本年	昨年				
空知	本所	5	0	0	日高	西部	3	0	0		
	南東部	2	0	0.5		渡島	本所	3	2.0	0	
	南西部	4	0	1.3			檜山	本所	2	0	0.5
	中空知	4	1.8	0.8				北部	2	0	0
	北空知	8	0.1	1.3		上川	本所	8	0	1.0	
石狩	本所	6	2.3	1.8	富良野		2	0	0		
	北部	4	0.5	2.8	大雪		4	0	1.3		
後志	本所	4	0	0	士別		2	0	0.5		
胆振	東胆振	4	0	4.0	名寄		3	0	0.5		
					留萌	本所	3	0.7	0		
						南留萌	3	2.7	1.3		

5. フタオビコヤガ(第1回) 発生量 やや少

予察田における第1回幼虫の発生量はいずれの地点も平年並であった。幼虫被害は比布町で平年よりやや少なく、長沼町および北斗市では平年並であった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)						被害率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	-	-	0	0.0	0	-	-	-	0	0.0	0	-
2半旬	-	-	0	0.2	0	0.0	-	0.0	0	0.2	0	0.0
3半旬	0	0.3	0	0.4	0	-	0	0.0	0	0.5	0	-
4半旬	0	0.0	1	1.0	0	0.0	0	0.0	0.1	1.3	0	0.0
5半旬	0	0.2	0	0.4	0	-	0	0.1	0	1.6	0	-
6半旬	0.5	0.3	0	0.3	0	0.0	0.3	0.3	0.1	1.4	0.2	0.0
平年数	3		10		10		3		10		10	

B. 秋まき小麦

1. 赤さび病 発生量 多

予察ほの感受性品種における発生は、長沼町および芽室町の「ホクシン」では平年に比べて多かった。訓子府町の「きたもえ」では未発生であった。基幹品種「きたほなみ」での発生は、長沼町および芽室町では平年に比べ多かった。訓子府町では未発生であった。

巡回調査の報告によると、5月6半旬時点では1地点で最上位葉の1枚下の葉に発生が認められたものの、6月3半旬時点では発生は認められていない。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ホクシン	全葉	19.80	5.12	28.66	18.16	—	44.05	10
		最上位葉	1.56	0.88	10.06	15.30	—	40.33	
		最上-1葉	5.30	3.87	10.80	12.89	—	32.13	
	きたほなみ	全葉	2.47	0.48	7.00	2.94	37.77	11.32	5
		最上位葉	0.32	0.16	1.98	1.10	18.20	10.82	
		最上-1葉	0.98	0.30	4.46	2.91	36.00	11.93	
芽室町	ホクシン	全葉	1.030	0.25	1.74	1.15	22.94	3.53	10
		最上位葉	0.02	0.01	0.84	0.34	21.64	2.90	
		最上-1葉	0.44	0.23	2.28	1.35	24.51	3.53	
	きたほなみ	全葉	1.70	0.10	2.13	0.42	33.50	1.47	6
		最上位葉	0.02	0	0.47	0.32	32.00	0.53	
		最上-1葉	0.76	0.05	1.29	0.71	35.15	1.89	
訓子府町	きたもえ	全葉	0	0.40	0	1.36	0	27.85	6
		最上位葉	0	0	0	0.30	0	4.54	
		最上-1葉	0	0.04	0	1.26	0	19.82	
	きたほなみ	全葉	0	0.05	0	0.26	0	2.12	6
		最上位葉	0	0	0	0.06	0	0.59	
		最上-1葉	0	0	0	0.24	0	2.38	

注) —: 調査不能

一般ほにおける赤さび病の巡回調査結果

普及センター	地点数	病葉率(%)		普及センター	地点数	病葉率(%)		
		6月	3半旬			6月	3半旬	
空知	本所	7	—	留萌	本所	4	—	
	南東部	2	—		網走	本所	8	0%
	南西部	4	—			清里	3	0%
	北空知	6	—			網走	2	0%
石狩	本所	8	—	美幌		6	0%	
	北部	4	—	遠軽	9	0%		
後志	本所	2	0%	紋別	2	0%		
胆振	本所	3	—	十勝	本所	6	—	
	東胆振	3	—		東部	6	—	
檜山	本所	2	0%		東北部	5	—	
	北部	2	—		北部	3	—	
上川	本所	3	—	西部	3	—		
	富良野	3	0%	南部	3	—		
	大雪	3	—					
	土別	3	0%					
	名寄	2	0%					

注1) —: 調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率: 最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

2. うどんこ病 発生量 少

予察ほの感受性品種「チホクコムギ」における発生は、長沼町では平年に比べ多かったものの、芽室町および訓子府町では平年に比べ少なかった。基幹品種「きたほなみ」での発生は、長沼町では平年並、芽室町および訓子府町では平年に比べ少なかった。

巡回調査の報告によると、5月6半旬時点では2地点で最上位葉の1枚下の葉に発生が認められたものの、6月3半旬時点では発生は認められていない。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数	
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬			
			本年	平年	本年	平年	本年	平年		
長沼町	チホクコムギ	全葉	11.24	7.82	17.64	7.56	—	12.02	10	
		最上位葉	1.20	0.45	2.68	2.15	—	5.46		
		最上-1葉	3.98	3.98	32.60	8.32	—	19.95		
	きたほなみ	全葉	0.11	0.10	0.34	0.06	1.44	0.11		5
		最上位葉	0	0	0	0.01	0.02	0.11		
		最上-1葉	0	0.01	0	0.07	0.10	0.11		
芽室町	チホクコムギ	全葉	0.54	7.44	1.99	12.53	3.34	17.55	10	
		最上位葉	0.01	1.07	0.25	4.58	1.81	11.36		
		最上-1葉	0.29	6.14	0.76	14.16	4.15	25.67		
	きたほなみ	全葉	0.00	0.14	0.03	0.20	0	0.30		6
		最上位葉	0.00	0.01	0	0.02	0	0.04		
		最上-1葉	0.00	0.04	0	0.10	0	0.19		
訓子府町	チホクコムギ	全葉	0.78	6.83	2.60	9.11	3.59	13.59	10	
		最上位葉	0	0.06	0.14	1.16	0.43	3.42		
		最上-1葉	0.02	1.96	1.64	6.65	3.06	17.10		
	きたほなみ	全葉	0.06	0.19	0.04	0.36	0.15	1.26		6
		最上位葉	0	0	0.00	0.01	0.01	0.05		
		最上-1葉	0	0.01	0.01	0.11	0.04	0.45		

注) — : 調査不能

一般ほにおけるうどんこ病の巡回調査結果

普及センター	地点数	病葉率(%)		普及センター	地点数	病葉率(%)		
		6月	3半旬			6月	3半旬	
空知	本所	7	—	留萌	本所	4	—	
	南東部	2	—		網走	本所	8	0%
	南西部	4	—			清里	3	0%
	北空知	6	—			網走	2	0%
石狩	本所	8	—	美幌		6	0%	
	北部	4	—	遠軽	9	0%		
後志	本所	2	0%	紋別	2	0%		
胆振	本所	3	—	十勝	本所	6	—	
	東胆振	3	—		東部	6	—	
檜山	本所	2	0%		東北部	5	—	
	北部	2	—		北部	3	—	
上川	本所	3	—		西部	3	—	
	富良野	3	0%		南部	3	—	
	大雪	3	—					
	士別	3	0%					
	名寄	2	0%					

注1) — : 調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率: 最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

3. アブラムシ類 発生期 やや早 発生量 やや多

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシ、ムギクビレアブラムシ両種の初発期は、長沼町で平年並、訓子府町では平年より早かった。

ムギヒゲナガアブラムシの発生量は両地点とも平年より多かった。ムギクビレアブラムシの発生量は長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや多かった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.0
3半旬	0	0.2	2	0.2	0	0.0	0	0.2
4半旬	3	1.8	3	0.6	0	0.2	6	0.4
5半旬	4	0.8	37	8.3	0	0.1	0	0.9
6半旬	17	1.0	13	15.3	4	4.2	0	1.9
初発期	6.IV	6.IV	6.III	6.V	6.VI	6.VI	6.II	6.V
平年数	10		9		10		9	

注)25 穂あたりの寄生虫数

C. 春まき小麦

1. ムギキモグリバエ 発生量 多

予察ほの春まき小麦における成虫すくい取り数は、いずれの地点も平年より多かった。

予察ほの春まき小麦におけるムギキモグリバエのすくい取り頭数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	16.3	5.0	170	76.1
2半旬	45.0	13.8	325	95.0
3半旬	51.3	0.7	105	51.9
4半旬	30.0	5.0	15	27.1
5半旬	36.3	1.7	5	6.3
6半旬	12.5	1.7	0	3.8
平年数	3		6	

注)20 回振り×5 日分換算値

D. 豆類

1. タネバエ (大豆) 発生量 やや多

予察ほの大豆における被害個体率は、長沼町で高く、訓子府町でやや高く芽室町では平年並であった。

予察ほにおけるタネバエの被害状況

	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害個体率	92.0%	25.1%	2.2%	3.5%	14.7%	6.3%
健全個体率	6.6%	61.4%	93.5%	91.5%	84.0%	84.7%
他未発芽	1.3%	10.9%	4.3%	5.0%	1.3%	9.1%
平年数	10		10		9	

注)他不出芽:タネバエ被害以外の不出芽個体率

2. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆) 発生期 やや遅 発生量 並

黄色水盤におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町で平年より遅く、芽室町で平年よりやや遅く、訓子府町では平年よりやや早かった。黄色水盤における捕獲数は、芽室町で平年並、訓子府町で平年よりやや少なく、長沼町では平年より少なかった。

予察ほの大豆における寄生虫数は、芽室町および訓子府町で平年並、長沼町では平年よりやや少なかった。

黄色水盤によるジャガイモヒゲナガアブラムシの誘殺頭数と初発期

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	3.1	0	0.7	1	0.5
2半旬	0	8.1	1	2.3	0	1.3
3半旬	0	5.2	0	0.6	0	1.0
4半旬	2	4.0	0	1.2	0	0.8
5半旬	0	3.9	1	0.5	0	1.3
6半旬	0	1.2	0	0.3	0	0.7
初発期	6.IV	5.VI	6.II	6.I	6.I	6.II
平年数	10		10		9	

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生状況

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	-	-	-	0.0	-	0.0
2半旬	-	5.0	-	1.0	-	0.9
3半旬	0	12.1	-	0.1	8	5.8
4半旬	0	10.1	1.5	2.0	4	3.2
5半旬	8	9.6	2.0	1.8	7	4.3
6半旬	8	6.0	2.0	3.6	1	4.9
平年数	10		10		9	

注)25株2小葉(計50小葉)あたりの寄生虫数

3. マメアブラムシ(小豆) 発生量 多

予察ほにおける寄生株率は、芽室町と訓子府町で平年より高かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年
6月3半旬	0	0.0	-	0.0
4半旬	2	0.2	4	0.0
5半旬	8	0.3	0	4.0
6半旬	36	4.8	28	6.9
平年数	8		7	

E. ばれいしょ

1. 疫病

発生期 早

<7月13日付け注意報第1号>

予察ほにおける初発期は、長沼町および訓子府町では平年より早く、北斗市ではやや早かった。芽室町では未発生である。

巡回調査の報告によると、胆振、渡島地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける疫病の初発期

地点	品種名	本年	平年	平年数
長沼町	とうや	7月9日	7月18日	7
	スノーマーチ	7月9日	7月26日	6
北斗市	とうや	7月5日	7月9日	6
芽室町	男爵薯	未発生	7月9日	10
	とうや	未発生	7月9日	7
	紅丸	未発生	7月8日	10
	スノーマーチ	未発生	7月11日	7
訓子府町	とうや	7月8日	7月14日	7
	スノーマーチ	7月4日	7月14日	6

一般ほにおける疫病の巡回調査結果

普及センター	調査地点数	発病株率(%)		普及センター	調査地点数	発病株率(%)	
		6月6半旬				6月6半旬	
空知	南東部	1	0	網走	本所	6	0
後志	本所	5	0		清里	3	0
胆振	本所	2	1		網走	2	0
渡島	本所	1	1		美幌	2	0
檜山	本所	2	0	十勝	本所	4	0
	北部	4	0		東部	6	0
上川	富良野	3	0		東北部	1	0
	大雪	3	0		北部	3	0
	士別	1	0		西部	3	0
	名寄	1	0	南部	3	0	
				釧路	本所	3	0
				根室	北根室	3	0

2. アブラムシ類

発生量 並

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、いずれの地点とも平年より少なかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町では平年より多く、訓子府町ではやや多く、芽室町では確認されなかった。モモアカアブラムシは、長沼町で認められたものの寄生虫数は少なかった。

巡回調査では、16地点で寄生が認められた。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	1.7	0	0.0	0	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	2.1	0	0.2	0.5	2.1	0	0.2	0	0.0	0	0.0
4半旬	0.5	1.5	0	0.1	0	2.2	2.5	0.2	0	0.0	4.5	0.4
5半旬	1.0	2.5	0	0.2	0	6.8	2.5	0.9	0	0.0	0	0.3
6半旬	2.5	2.9	0.5	1.4	0.5	11.4	22.0	1.5	0	0.0	0.5	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数

注2)品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

普及センター		地点数	6月3半旬	6月6半旬
空知	南東部	1	0	0
後志	本所	5	0	0.2
胆振	本所	2	0	0
渡島	本所	1	2.0	1.0
檜山	本所	2	0	0
	北部	4	1.3	0
上川	富良野	3	0	0
	大雪	3	0	0
	士別	1	0	1.0
	名寄	1	0	0
網走	本所	6	0	0.3
	清里	3	0	0.3
	網走	2	0	3.5
	美幌	2	0	0
十勝	本所	4	0	1.0
	東部	6	0.2	0.3
	東北部	1	1.0	0
	北部	3	0	0
	西部	3	0	0
	南部	3	0	1.7
釧路	本所	3	0	1.0
根室	北根室	3	0	0.7

注)調査株数は10株20複葉

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 —

予察ほにおける初発期は、訓子府町では平年より早かった。長沼町および芽室町では発生が認められていない。

予察ほにおける褐斑病の発生状況

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	リッカ	未発生	—	—
	あまいぶき	未発生	7月9日	5
芽室町	リッカ	未発生	—	—
	あまいぶき	未発生	7月13日	3
	スタウト	未発生	7月19日	8
訓子府町	リッカ	7月4日	7月11日	6

注) —:平年値なし

2. ヨトウガ (第1回) 発生期 やや早 発生量 やや少

予察ほにおける産卵の初発期は、芽室町で平年より早く、訓子府町で平年よりやや早く、長沼町では平年並であった。卵塊数は、長沼町で平年より少なく、芽室町と訓子府町では平年並であった。食害程度は長沼町および芽室町では平年よりやや低かった。訓子府町では食害が認められなかった。

巡回調査によると、要防除水準（被害株率 50%）に達した地点は認められなかった。

予察ほにおけるヨトウガの産卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度						
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6月1半旬	0	0.4	0.5	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0
2半旬	—	3.8	1.0	0.6	0	0	—	0	0	0	0	0	0
3半旬	1	6	3.0	1.5	0	0	—	0	0	0	0	0	0
4半旬	3	8.4	2.0	2.0	2	0.8	0	0.5	0	0.4	0	0	0
5半旬	1	5.2	1.0	1.7	0	0.6	4	8.5	2	3.3	0	0.3	0.3
6半旬	1	3.4	1.0	0.6	0	0.9	7	15.9	4	8.1	0	1.4	1.4
初発期	6.Ⅱ	6.Ⅱ	6.Ⅰ	6.Ⅲ	6.Ⅳ	6.Ⅴ							
平年数	10		10		10		10		10		10		

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率

普及センター		地点数	6月6半旬		普及センター		地点数	6月6半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	南東部	1	1.0%	2.0%	網走	本所	10	3.5%	12.3%
石狩	本所	3	17.7%	4.7%		清里	3	1.7%	4.0%
後志	本所	3	0.0%	2.3%		網走	2	0.0%	3.0%
胆振	本所	4	11.8%	9.8%		美幌	6	1.3%	5.7%
	東胆振	3	2.0%	1.7%		遠軽	9	0.9%	8.3%
上川	富良野	3	8.7%	15.0%	十勝	本所	4	0.0%	15.8%
	大雪	3	0.0%	2.0%		東部	6	1.7%	4.7%
	士別	2	0.0%	0.0%		東北部	4	0.0%	5.5%
	名寄	1	4.0%	58.0%		北部	3	0.0%	0.0%
						西部	3	0.0%	6.7%
						南部	3	1.3%	3.7%

注)50株調査

3. テンサイトビハムシ 発生量 並

予察ほにおける食害程度は、長沼町で平年より高く、訓子府町で平年よりやや低く、芽室町では平年並であった。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの食害程度

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	42	27.4	11	14.3	23	29.5
2半旬	-	27.3	13	15.0	24	31.1
平年数	10		10		9	

4. テンサイモグリハナバエ 発生量 少

予察ほにおける被害は、訓子府町で平年並であった。長沼町および芽室町では被害が認められなかった。

予察ほにおけるテンサイモグリハナバエの被害葉率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	-	0.0	0	0.1	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.9	0	0.0
4半旬	0	0.2	0	2.9	0	0.1
5半旬	0	0.2	0	5.1	0.7	0.0
6半旬	0	0.2	0	5.2	0.7	0.1
平年数	10		10		9	

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生期 並 発生量 やや多

予察ほにおける初発期は、長沼町、訓子府町ともに平年並だった。6月6半旬における発生量は、長沼町では平年に比べて多く、訓子府町では平年並だった。

巡回調査の報告によると、空知、上川、オホーツク地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける白斑葉枯病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	6月17日	6月18日	0	0	9.5	6.0	24.0	17.5	5
訓子府町	北もみじ2000	6月22日	6月20日	0	0	0.0	1.2	2.0	5.7	3

一般ほにおける白斑葉枯病の巡回調査結果

普及センター	調査地点数	発病株率(%)		普及センター	調査地点数	発病株率(%)	
		6月6半旬				6月6半旬	
空知	本所	4	0	上川	富良野	4	2.0
	南東部	1	1.1		士別	1	0
	南西部	3	0	網走	本所	8	0
	中空知	1	0		美幌	6	0
石狩	北部	2	0	湧別	3	2.7	
				十勝	東部	1	0

2. ネギアザミウマ 発生期 並 発生量 並

予察ほにおける幼虫の初発期は、長沼町で平年よりやや遅く、訓子府町で平年よりやや早かった。寄生幼虫数は、長沼町では平年より少なく、訓子府町では平年より多かった。被害程度は長沼町で平年より低く、訓子府町で平年よりやや高かった。

巡回調査によると、多発生（寄生株率51%以上）となる地点は認められなかった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.1	2	0.1
2半旬	0	0.7	0	0.0	0	1.7	6	3.3
3半旬	0	1.8	4	1.9	0	2.5	12	6.7
4半旬	0.5	12.1	152	6.0	0	5.1	33	19.8
5半旬	0	99.0	416	63.7	5	10.9	51	29.6
6半旬	8.5	222.9	803	607.7	6	18.1	60	41.8
初発期	6.IV	6.III	6.III	6.IV	6.V	6.II	6.I	6.II
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率

普及センター		地点数	6月6半旬		普及センター		地点数	6月6半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	4	0.0%	13.5%	上川	富良野	4	2.0%	36.0%
	南東部	3	2.8%	0.0%		士別	1	0.0%	0.0%
	南西部	2	0.0%	14.7%	網走	本所	8	0.8%	13.5%
	中空知	1	0.0%	4.0%		美幌	6	4.3%	8.0%
石狩	江別	2	25.0%	0.0%		湧別	3	21.3%	5.3%
					十勝	東部	1	11.0%	8.0%

注)25株調査

H. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なく、北斗市で平年並であった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	8.6	3.4	-
2半旬	-	28.4	5.6	3.7
3半旬	0	35.4	6.4	-
4半旬	11	40.9	5.2	7.4
5半旬	6	21.7	3.6	-
6半旬	8	13.4	0.8	3.9
平年数	10		10	

注)10株あたりの寄生虫数

2. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる誘殺頭数は、北斗市では平年よりやや多く、芽室町では平年並、長沼町および訓子府町では平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、北斗市では平年より多く、長沼町では平年より少なかった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	37	35.2	66	81.3	16	13.2	6	14.5
2半旬	-	41.2	38	46.6	10	5.9	8	12.8
3半旬	27	38.8	74	49.2	7	3.6	11	6.7
4半旬	5	40.2	48	28.8	10	5.4	0	6.7
5半旬	10	79.6	45	42.2	2	9.1	7	4.5
6半旬	-	89.7	49	32.1	2	10.9	1	2.9
平年数	10		10		10		10	

注)設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.9	4	-
2半旬	-	13.2	12	5.3
3半旬	16	41.0	30	-
4半旬	7	54.4	28	5.9
5半旬	16	36.4	44	-
6半旬	42	49.1	35	12.8
平年数	10		10	

注)10株あたりの寄生虫数

I. りんご

1. モニリア病 発生量 少

長沼町（無防除）および余市町（慣行防除）の予察園では、モニリア病の発生は認められなかった。巡回調査の報告によると、一般園においても発生は認められていない。

予察園（長沼町）におけるモニリア病の発生状況

品種名	昂林			
	実腐花葉叢率(%)		株腐花葉叢率(%)	
調査時期	本年	平年	本年	平年
落花10日後	0	0		
落花20日後			0	0

平年値は6年の平均値

予察園（余市町）におけるモニリア病の発生状況

地点	品種名	調査時期	葉腐花葉叢率(%)		平年数
			本年	平年	
余市町A	つがる	6月1週目	0	0.15	10
		6月2週目	0	0.09	
		6月3週目	0	0.04	
余市町B	つがる	6月1週目	0	0.28	10
		6月2週目	0	0.10	
		6月3週目	0	0.19	

注)余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

2. 黒星病 発生期 やや早 発生量 やや多

長沼町の予察園（無防除）における初発期は、「昂林」、「つがる」ともに平年よりやや早かった。発生量は両品種とも平年に比べ多かった。余市町の予察園（慣行防除）では2園地とも未発生である。

巡回調査の報告によると、一般園における発生は認められていない。

予察園(長沼町)における黒星病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	昂林	6月15日	6月20日	6
	つがる	6月16日	6月20日	6

予察園(長沼町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)											
		6月1半旬		6月2半旬		6月3半旬		6月4半旬		6月5半旬		6月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	昂林	0	0	0	0	0.2	0.50	1.57	1.17	5.12	2.78	10.39	6.36
	つがる	0	0	0	0	0	0.58	2.44	1.69	6.98	2.97	9.30	7.74

注) 平年数は6年

予察園(余市町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		6月1週目		6月2週目		6月3週目		6月4週目		6月5週目	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町A	つがる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
余市町B	つがる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.003

注) 余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

一般園における黒星病の巡回調査結果

普及センター		調査地点数	発病葉率(%)	
			6月3半旬	6月6半旬
後志	北後志	4	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

3. 斑点落葉病 発生期 遅 発生量 少

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生は認められていない。

予察園(長沼町)における斑点落葉病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	王林	未発生	6月22日	5

予察園(長沼町)における斑点落葉病の発生状況

地点	品種名	新梢病葉率(%)						平年数
		6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林	0	0	0	0.32	0	0.73	5

4. ハマキムシ類 発生期 やや早 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの初誘殺日は、長沼町で平年よりやや早く、余市町Aでは平年よりやや遅かった。余市町Bでは誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキの初誘殺日は、長沼町で平年並、余市町Aで平年より早く、余市町Bでは平年よりやや早かった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺頭数は、長沼町で平年より多く、余市町Aでは平年よりやや少なかった。余市町Bでは誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキの誘殺頭数は、長沼町で平年よりやや多く、余市町Aおよび余市町Bでは平年より少なかった。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺頭数は、岩見沢市および七飯町で平年並、札幌市および伊達市で少なかった。壮警町では誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキの誘殺頭数は、いずれの地点も平年並であった。

フェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺頭数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2.7	1.1	0	0.1
2半旬	-	1.1	0	0.1	0	0.0	-	0.1	2.5	2.8	0	1.3
3半旬	3	3.3	0	0.1	0	0.0	8	3.5	1.8	2.4	2.0	1.9
4半旬	51	13.8	3.0	1.3	0	0.4	19	12.0	0.7	2.5	1.0	4.9
5半旬	91	17.1	4.0	3.4	0	0.8	44	29.5	0	3.5	0	3.3
6半旬	7	24.6	0	6.8	0	2.9	32	38.1	0	3.4	0	2.2
初誘殺日	6月15日	6月18日	6月24日	6月20日	-	6月23日	6月15日	6月16日	6月3日	6月15日	6月12日	6月17日
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮警町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.2	0.8	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	1.5	1.9	1.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
4半旬	3.0	2.3	2.4	4.9	0	0.3	0	0.4	3.6	1.4
5半旬	2.5	3.0	2.2	12.6	0.4	1.4	0	0.7	2.4	2.8
6半旬	0.5	1.6	2.0	9.8	0.6	3.3	0	3.3	1.5	6.6
平年数	10		10		10		10		6	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮警町・七飯町1地点

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮警町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0.8	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
2半旬	0	0.1	2.2	0.0	0.2	0.0	0	0.0	0.3	0.1
3半旬	0	0.3	2.5	0.3	0.8	0.0	0	0.0	2.7	0.5
4半旬	0.1	0.5	1.8	1.3	0.8	0.6	0	0.3	0.2	0.6
5半旬	0.4	0.6	5.2	5.1	2.6	2.3	0.4	0.7	0.8	1.4
6半旬	0	1.9	7.5	11.2	3.8	5.9	0.6	1.0	0	1.9
平年数	10		9		10		10		6	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮警町・七飯町1地点

5. モモシクイガ 発生期 やや早 発生量 やや多

予察園のフェロモントラップによる初誘殺日は、いずれの地点も平年よりやや早かった。長沼町の予察園における産卵初発は7月1日（平年：7月5日）と平年よりやや早かった。

予察園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、長沼町で平年より多く、余市町Aおよび余市町Bでは平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、札幌市では平年より多く、岩見沢市および七飯町では平年並、深川市、伊達市、壮瞥町および旭川市では平年よりやや少なかった。

予察園におけるフェロモントラップによるモモシクイガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	-	0.1	0	0.2	0	0.1
3半旬	4	0.4	0.7	0.9	0.7	0.3
4半旬	14	1.7	5.0	1.7	4.2	2.5
5半旬	19	5.3	8.0	6.7	8.3	5.2
6半旬	35	12.9	8.6	13.0	15.7	11.9
初誘殺日	6月15日	6月19日	6月17日	6月21日	6月15日	6月20日
平年数	10		10		10	

注) 余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

一般園におけるフェロモントラップによるモモシクイガの誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		深川市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.5	0.0	0.2	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.1	2.3	0.2	0.8	0.2	0	0.0	0	0.7
4半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.2	2.3	0.8	0.8	1.6	0	0.2	2.0	3.2
5半旬	0	0.6	0.8	2.6	6.9	1.3	1.3	3.6	1.8	3.9	0	0.3	2.0	5.1
6半旬	0.5	1.1	1.3	10.0	11.5	1.7	0.6	7.6	2.5	6.9	0.5	0.8	3.0	9.8
平年数	10		8		10		10		10		6		9	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、深川市・札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町・旭川市1地点

6. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリングハダニの発生はいずれの地点も認められなかった。ナミハダニの発生量は余市町Aで平年並であった。長沼町および余市町Bでは発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リングハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	-	0	-	0	0.0	0	-	0	-
2半旬	-	1.5	-	3.0	-	0.7	-	0.0	-	0.2	-	0.0
3半旬	0	1.4	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	0.0
4半旬	0	0.3	0	1.8	0	0.2	0	0.0	1	0.1	0	2.9
5半旬	0	1.2	0	0.3	0	0.0	0	0.6	0	0.0	0	5.3
6半旬	0	1.6	-	1.1	-	0.3	0	0.1	-	6.9	-	2.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 30葉あたりの寄生虫数

注 2) 余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

7. キンモンホソガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、長沼町および余市町Aで平年よりやや少なく、余市町Bでは平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺頭数は、札幌市では平年よりやや多く、その他の地点では平年より少なかった。

予察園におけるフェロモントラップによるキンモンホソガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	2.0	0	4.7	0	1.6
2半旬	0	0.5	0	1.9	0	0.9
3半旬	0	0.4	0	0.6	0	0.8
4半旬	0	0.2	6.9	0.5	1.3	0.5
5半旬	3	7.6	15.3	6.1	2.4	11.9
6半旬	8	6.9	30.7	108.4	3.6	58.8
平年数	10		10		10	

注)余市町A・余市町Bの予察園は慣行防除

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0.5	6.2	0	0.3	0	0.1	0	0.8	0	7.2	0	4.6
2半旬	0.5	3.5	1.5	0.3	0	1.4	0	1.2	0	2.3	0	1.0
3半旬	0	1.2	3.8	0.4	0	0.7	1	0.4	0	0.5	0	0.3
4半旬	0.2	0.9	4.1	0.1	0	1.2	0.8	0.3	9.0	0.3	0.4	4.4
5半旬	1.4	5.0	3.2	0.3	0	1.7	4.8	9.7	21.2	20.3	1.8	11.2
6半旬	2.0	34.0	2.5	0.3	1	4.1	7.5	47.9	47.1	117.8	18.9	69.3
平年数	10		10		10		10		7		10	

注)調査地点数は、岩見沢市・増毛町2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町1地点

農薬による蜜蜂への被害に注意しましょう！

■ 水稻の開花期である7～9月は、多くの養蜂家が道内各地に移動してきており、その中で水田の周辺に蜂場を設置して養蜂が行われている場合があります。

国の調査結果では、蜜蜂被害は水稻の開花期に多く、カメムシ防除に使用する殺虫剤を直接浴びたことが、原因の可能性があると考えられています。

このため、これから水稻のカメムシ防除の時期となりますので、次の点に留意して適切な防除対策を進めてください。

- ① 蜜蜂は水稻開花期に周辺の水田に飛来しており、その際、カメムシ防除のための殺虫剤の暴露により被害が生じる可能性があります。
- ② 関係機関や農業団体等は、蜂場の設置場所及びその周辺の水田の農業散布計画等の情報を相互に共有し、得た情報を養蜂家、周辺の水稲農家に伝え、注意喚起しましょう。
- ③ 養蜂家は、蜜蜂がカメムシ防除の殺虫剤に暴露する確率が高い場所には、できるだけ巣箱の設置を避けるか、水稻の開花期に巣箱を退避させましょう。
- ④ 水稻農家においても、養蜂家と協力して、蜜蜂の活動が盛んな時間帯の農業散布を避けたり、蜜蜂が暴露しにくい形態の農薬(粒剤等)を使用するなど、地域の実態に合わせて取り組んでください。

6月15日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理、環境への影響に配慮した農薬の使用等を推進するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、**「農薬危害防止運動」**を実施します。



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調の優れない、または著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認すること。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に注意して、洗浄を十分に行うこと。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ、周辺住民等の関係者に連絡し、立札を立てるなど、関係のない者が作業現場に近づかないよう配慮する。
特に、有人ヘリや無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に、有人ヘリや無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

■ 農薬に関してお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課 (TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所 (TEL0123-89-2080)

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等について、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

